

牛乳産業の未来のために 全国酪農青年女性酪農発表大会最優秀賞

7月11日、12日に開催された全国酪農青年女性酪農発表大会において菅尾の山口やよいさんが最優秀賞を受賞されました。この大会は酪農を営む上での生活全体の改善に係る活動についての発表です。

今回、九州代表として発表をされた山口さん。もとは北海道の釧路市にある酪農家出身で、結婚を機に山都町（旧蘇陽町）へ来られました。



現在は酪農女性、牛乳専門家、消費者代表、料理研究家などの酪農経営者以外の方からも協力を得てNPO法人「スローライフミルクネット」を設立。牛乳離れが進む現在、牛乳を飲み物としてではなく、チーズが出来る牛乳として流通させる仕掛け作りにも尽力されています。

今回、発表の中で山口さんは、「地域の牛乳だからこそ出来ることを探し出し、国民から信頼される牛乳を作ることが私たちの生かされる道だと信じている。」と力強く話されました。

山都の景観をはぐくむたくさんの力

山都町を代表する国指定重要文化財「通潤橋」をはじめとした、美しい景観は、町民の善意と各種団体の奉仕活動により維持されています。

矢部隊友会（会長：松岡昭二）が通潤橋周辺の清掃作業

7月28日、毎年恒例となった通潤橋周辺の草刈清掃作業が行われました。

夏休みを迎え、観光客や帰省客が増えるこの時期、作業に取り組みられています。会員11名の皆さんは蒸し暑い中に大量の汗を流しながら作業に取り組みました。「通潤橋を訪れていただく皆さんに気持ち良い時間を過ごしていただいたら幸いです」と松岡会長は話されました。



景観を育むたくさんの力

町では、通潤橋を始め、清和文楽邑やそよ風パークなど多くの観光客を迎え、いわば「山都の顔」となる主要観光施設の景観保全に取り組みますが、これらは、行政だけの取り組みで維持できるものではありません。地域住民の方々や自治振興区はじめ様々な団体の奉仕活動によって支えられています。

景観や環境保全の意義を共有

ライオンズクラブや老人クラブなど様々な団体の記念植樹や奉仕活動も「山都の景観」を育むなかで、重要な取り組みの一つです。これからも、町民と行政、各種団体が協働して景観と環境保全の意義を理解し、意識を共有しながら、次の世代へ「山都の景観」をつないでいく必要があります。

広げよう 蛍光管リサイクルの環



使い終わった蛍光管は、どのように処理しているの？

「北九州エコタウンにある専門の工場です。」

ガラスと蛍光体は新しい蛍光管へ。

蛍光体はレアアースに戻ります。

地球温暖化防止に役立っています。

～平成24年度 使い終わった蛍光管の処理状況（山都町）～

処理した
蛍光管の量
17,300本相当
(4,223kg)
40W型 蛍光管本数に換算

二酸化炭素
排出量の低減
杉の木 64本相当
(900kg-co₂)
杉の木が1年間に吸収する二酸化炭素の量に換算 (14kg-CO₂/年 環境省)